

# 2024 年度九州経済見通し（改訂）

～個人消費では所得環境が改善されるも、設備投資が伸び悩む懸念から見通しを下方修正

2024 年 7 月 9 日

公益財団法人九州経済調査協会 動向分析班

## 域内総生産を 0.1%pt 下方修正

当会は、九州（沖縄県含む）の 2024 年度実質域内総生産（GRP）成長率を前年度比+1.3%と予測する。2023 年 12 月に発表した当初見通しと比べ、0.1%pt の下方修正となる。これは直近の全国の民間予測（シンクタンク 8 社平均：同+0.7%）を 0.6%pt 上回る水準である。なお、本見通しは 7 月 1 日の GDP 改定の内容を一部加味している。

下方修正の主な要因として、人手不足や資材価格の高騰等に伴い設備投資がやや伸び悩むことが挙げられる。半導体、物流、食品加工業を中心に引き続き設備投資が多く計画され、公共投資も旺盛である中、工期遅延等が懸念される。

一方、民間消費について、現金給与総額等の指標が当初予測時を上回って推移していることを加味し、年度内の実質賃金のプラスへの転換を見込んで成長率をやや上方修正した。

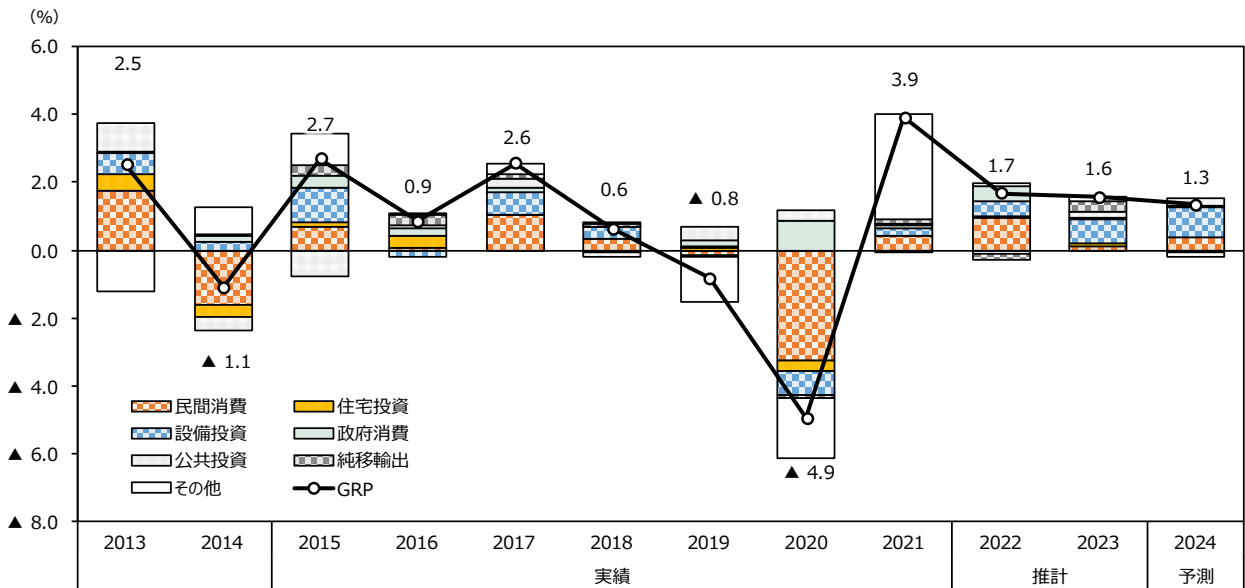
表 1 経済成長率の見通し（九州、前年度比）

|    |                         | (単位：％、％pt)   |              |              |              |              |              |
|----|-------------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
|    | 年度                      | 2020<br>(実績) | 2021<br>(実績) | 2022<br>(推計) | 2023<br>(推計) | 2024<br>(前回) | 2024<br>(今回) |
| 九州 | 域内総生産                   | ▲ 4.9        | 3.9          | 1.7          | 1.6          | 1.4          | 1.3          |
|    | 民間消費                    | ▲ 5.6        | 0.7          | 1.7          | 0.2          | 0.5          | 0.6          |
|    | 民間住宅投資                  | ▲ 8.6        | ▲ 2.0        | 1.3          | 2.6          | 0.5          | ▲ 0.6        |
|    | 民間企業設備投資                | ▲ 4.5        | 1.7          | 3.0          | 4.8          | 6.1          | 5.6          |
|    | 政府消費                    | 4.4          | 0.3          | 1.9          | 0.1          | 0.4          | 0.4          |
|    | 公共投資                    | 4.7          | 1.0          | ▲ 1.8        | 2.5          | 2.8          | 3.0          |
|    | 純移輸出 <sup>※</sup> （寄与度） | ▲ 0.1        | 0.1          | ▲ 0.2        | 0.3          | ▲ 0.1        | ▲ 0.0        |
| 全国 | 鉱工業生産指数（九州7県）           | ▲ 8.2        | 4.7          | 3.9          | ▲ 1.4        | 1.0          | 0.8          |
|    | 国内総生産                   | ▲ 3.9        | 3.0          | 1.7          | 1.0          | 1.0          | 0.7          |
|    | 民間消費                    | ▲ 4.8        | 1.8          | 2.7          | ▲ 0.6        | 1.2          | 0.5          |
|    | 民間住宅投資                  | ▲ 7.5        | 0.4          | ▲ 3.3        | 0.3          | ▲ 0.5        | ▲ 2.1        |
|    | 民間企業設備投資                | ▲ 5.7        | 3.2          | 4.1          | 0.4          | 2.5          | 2.2          |
|    | 政府消費                    | 2.7          | 3.2          | 1.4          | 0.1          | 0.6          | 0.5          |
|    | 公共投資                    | 4.8          | ▲ 6.5        | 2.4          | 0.8          | 1.4          | 1.9          |
|    | 純輸出（寄与度）                | ▲ 0.7        | 0.9          | ▲ 0.4        | 1.2          | ▲ 0.1        | ▲ 0.1        |
|    | 鉱工業生産指数                 | ▲ 9.5        | 5.5          | ▲ 0.3        | ▲ 1.9        | 1.3          | 0.8          |

- 注）1. 九州、全国の鉱工業生産指数は 2020 年基準  
2. 網掛け個所は実績値、その他は九経調による推計・予測値  
3. 2024 年度の国内総生産は民間シンクタンクの予測値平均（2024 年 1～3 月期 2 次 QE 後改訂値）

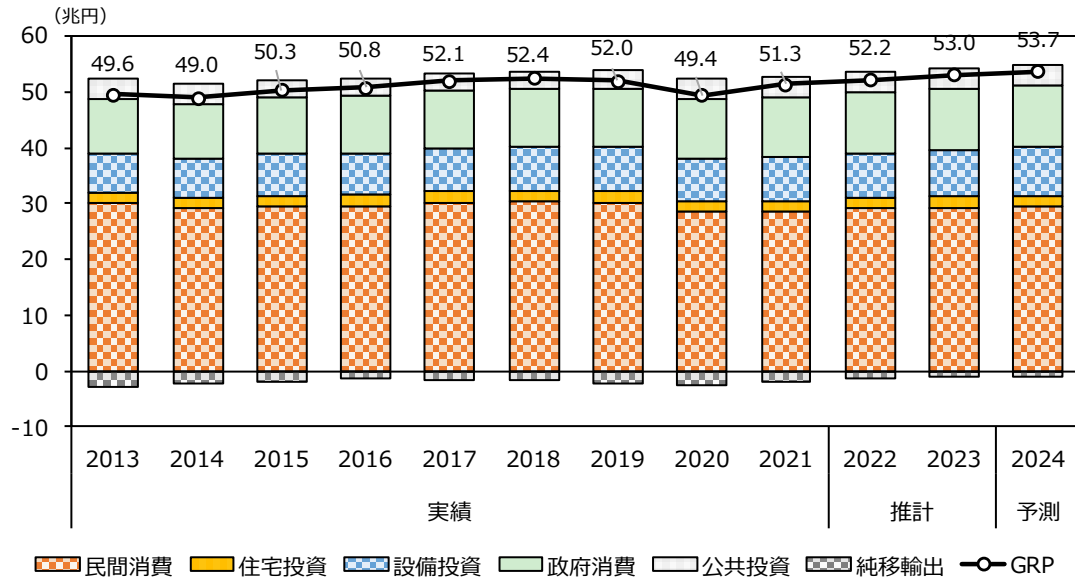
資料）各県「県民経済計算」、内閣府「国民経済計算」等より九経調作成

図 1 実質経済成長率の需要項目別寄与度（九州、前年度比）



資料）各県「県民経済計算」、内閣府「国民経済計算」等より九経調作成

図2 九州の域内総生産（GRP）の推移（実質、2015 暦年連鎖価格）



資料）各県「県民経済計算」、内閣府「国民経済計算」等より九経調作成

## 改訂のポイント

### 1) 民間企業設備投資

- 設備投資は引き続き高水準を維持するものの、人手不足や資材価格の高騰等に伴い 0.5%pt の下方修正。
- 日本銀行福岡支店「企業短期経済観測調査」によると、24 年度の設備投資計画は全産業で前年比 4.8%であり、同+31.6%であった前年度から引き続き、全国を上回る水準で上昇している。案件ベースでは半導体関連のほか、「物流の 2024 年問題」を背景に物流業や食品加工業で大規模な投資計画が発表されている。
- 一方、国土交通省「建設総合統計」によれば、九州の手持ち工事高は 23 年 3 月時点で前年同月比+27.3%、24 年 3 月時点で同+0.2%と積み増している。人手不足や資材価格高騰を背景に工期遅延が懸念される。

### 2) 民間消費

- 所得環境に改善の傾向が見込まれることから、当初予測から 0.1%pt の上方修正。
- 厚生労働省「毎月勤労統計」によれば、九州の 24 年 4 月の現金給与額は前年同月比+3.2%であり、全国と同+1.6%を上回っている。また、帝国データバンク福岡支店「2024 年度の賃金動向に関する九州企業の意識調査」によれば、過去最高となる 60.8%の企業で今年度の賃金改善を見込んでいる。連合福岡によれば、今年度春闘における賃上げ率は 4.34%と前年同期比+2.12%pt 増である。物価高騰の継続により消費マインドが伸び悩んでいるものの、これらの指標が当初予測時の水準を上回っているため、若干の上方修正とした。

### 3) その他

- 公共投資について、県や政令指定都市の建設関連予算が昨年度と同程度の水準にあることに加え、足下で馬毛島、キャンプ・シュワブなど防衛関連の大型工事が着工しており、当初予測から+0.2%pt の上方修正。
- 純移輸出について、23 年度の九州の貿易収支は+1.0 兆円と 2 年ぶりに輸出超過に転じた。また、観光庁「宿泊旅行統計調査」によれば 24 年 4 月の九州の外国人延べ宿泊者数は 730.6 万人であり、前年同月比+60.4%、コロナ禍前の 19 年同月比+2.2%とインバウンドも旺盛である。従って、当初予測から 0.1%pt の上方修正。
- 鉱工業指数について、JASM 第一工場の稼働を年内に控えていること、世界の半導体市況における「シリコンサイクル」が上向きに転じていることから回復に転じる。一方、大手自動車メーカーの不正問題の影響で自動車生産が伸び悩むことが懸念されるため、当初予測から 0.2%pt の下方修正。